

### 13. 水玉の女王

日本人はブランド品が大好きで、特に欧米<sup>おうべい</sup>のブランド品には目がない。海外旅行に出かけると老若男女<sup>ろうにやくなんによ</sup>を問わず、ブランド品<sup>こうにゆう</sup>を購入して戻ってくる。数あるブランド品の中で、日本の女性の憧<sup>あこが</sup>れの対象となっているのは、何と言ってもルイ・ヴィトンではなかろうか。ルイ・ヴィトンと聞いて、誰もがすぐに思い浮かべるのは、L と v が重なった文字に花をシンプルにデザインしたモノグラム \* という模様<sup>もよう</sup>に違いない。ところが、先日ルイ・ヴィトンの店の前を通った時、ショーウィンドーから私の目に入ってきたのは、モノグラムではなく、真っ赤な水玉<sup>みずたま</sup>が無数<sup>むすう</sup>にプリントされた模様<sup>もよう</sup>だった。気になったので、家に戻り次第<sup>しだい</sup> \*\* インターネットで検索してみると、この模様<sup>もよう</sup>はルイ・ヴィトンが草間彌生<sup>くさまやよい</sup>というアーティストとコラボレーションして作ったものであることが分かった。

草間彌生<sup>くさまやよい</sup>は、水玉<sup>みずたま</sup>をモチーフにした作品で有名な前衛芸術家<sup>ぜんえいげいじゆつか</sup>だ。草間<sup>くさま</sup>は子供の頃から統合失調症<sup>とうごうしつちようしやう</sup>に悩まされ、その幻聴<sup>げんちやう</sup>や幻覚<sup>げんかく</sup>から逃れるために絵を描き始めたという。京都の美術学校<sup>びじゆつがっこう</sup>で日本画を学んだが、伝統<sup>でんとう</sup>を重視する日本画になじめず、1952 年にニューヨークに渡り、絵画<sup>ちやうこく</sup>や彫刻<sup>せいさく</sup>の他に立体を使った作品などの制作<sup>せいさく</sup>も始める。次第<sup>しだい</sup>に評価<sup>ひやうか</sup>を得るが、1973 年に体調を崩して日本に戻る。

幻聴<sup>まぼろしそ</sup>や幻覚<sup>げんかく</sup>から発想を得て、原色を使って描かれた作品は見る者を圧倒<sup>あつとう</sup>する力があり、ロンドンのテート・モダン及びニューヨークのホイットニー美術館などで個展を開き、世界の 100 以上の美術館<sup>びじゆつかん</sup>が彼女の作品を所蔵<sup>しやぞう</sup>しているという。このように世界から高い評価<sup>ひやうか</sup>を受けている一方、ルイ・ヴィトンとのコラボレーション<sup>けいたいでんわ</sup>や携帯電話のデザインなどを手がけている草間<sup>くさま</sup>を芸術家<sup>げいじゆつか</sup>というよりはビジネスに偏りすぎていると批判<sup>ひはん</sup>する人達も少なからずいる。

現在、草間<sup>くさま</sup>は自宅ではなく病院に入り、そこで治療<sup>ちりょう</sup>を受けつつ、スタジオに通い作品の制作を続けている。草間<sup>くさま</sup>は絵を描くことは病気と戦うことでもあると発言しており、高齡<sup>こうれい</sup>にも関わらず命が続く限り絵を描き続けるつもりである。賛否両論<sup>さんびりょうろん</sup>がある彼女への評価<sup>ひょうか</sup>であるが、草間彌生<sup>くさまやよい</sup>が芸術家<sup>げいじゅつか</sup>として 50 年後の世界でどのような評価<sup>ひょうか</sup>を受けているか見てみたいものである。

#### 単語リスト：

老若男女（ろうにゃくなんによ）	Nam nữ ở mọi lứa	重視（じゅうし）	Coi trọng, chú trọng
tuổi (Già trẻ trai gái)		彫刻（ちょうこく）	Điêu khắc
購入（こうにゅう）	Mua vào, nhập vào	原色（げんしょく）	Màu sắc cơ bản
模様（もよう）	Hoa văn	圧倒（あつとう）	Choáng ngợp, áp đảo, vượt trội
水玉（みずたま）	Châm bi	所蔵（しょぞう）	Lưu trữ, sưu tập
検索（けんさく）	Tìm kiếm	偏り（かたより）	Mất cân bằng
幻聴（げんちょう）	Ảo giác thính giác (Nghe nhầm)		
幻覚（げんかく）	Ảo giác (Nhìn nhầm)		